

区レベル地域ケア会議 検討シート(討議結果を反映)

【検討課題】 認知症高齢者の支援(ケースC)

I 個別レベル 会議での主な事 例	II 事例から導きだ された地域課題・問 題 (圏域レベル)	III 区レベル会議で挙げた課題解決策の案 <具体的な役割分担> ※それぞれが少しでもできること							
		本人・家族	地域住民	地域団体 [自治会町会・民協・シニアク ラブ等]	地域資源 [商店・事業所・ 企業等]	専門機関 [福祉・医療・法律等の 専門職]	地域包括支援 センター	社会福祉 協議会	大田区
<p>【ケースC】 80代女性 同居している子どもが、病気が精神疾患のため無職、経済的に困窮し、未申請のため支援も受けていない。 財産管理や書類整理が困難になってきた。</p> <p>●本当に困っている人の発見と、関係機関への繋ぎをどのように行うか。</p>		解決策⑥ 支援を求める訴えが弱い人や複合的な症状を抱えた人への気づきと早期発見							
		近隣住民や民生委員、地域包括支援センターに相談	本人・家族と信頼関係がある人が状況を見守り、不審な点は地域包括支援センターや成年後見センターへ情報提供				民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会が、早期発見・情報共有ための連携を強化		ひとり暮らし高齢者登録名簿に登録
		自ら認知症に気づき、受け入れ、受診							
		解決策⑦ 重複・複合的な困難状況を抱えた人を発見したとき、介入できる仕組み、またその後の対応・支援、孤立させない仕組みづくり							
	ホームロイヤール制度を利用	本人・家族と信頼関係がある人が可能な範囲内で見守る				区関係各部署や地域包括支援センター、成年後見センターの情報交換・共有			
	最終的には施設入所					施設入所の受入	成年後見センターでの対応	庁内連携	
	地域包括支援センター	包括が主軸となって症状・状況に応じたアウトリーチチームを組んで支援(症状に応じた専門家、区の保健師など)							
	社会福祉協議会	支え合い・助け合いの地域づくり・人づくり、社会支援のネットワークづくり 区の中で孤立させない、大田区らしい、大田区だからこそできる、実践的・具体的仕組みの構築							
	大田区								

今回の区レベル会議のまとめ

社会的つながりが弱い人は支援を求める訴えが弱く、気づきにくい状況にある。発見しても精神疾患や障がいなどの複合的な症状を抱えた人は、専門性を欠いた地域住民からの支援が見込めないケースがほとんどであると言える。最終的には施設入所という結果になると思われる。そうならないためにも、複合的な症状が発症する前の早期発見や複合的な症状を抱えた人に専門機関が強く介入できる支援体制をつくっていくことが解決策となる。

早期発見は、地域住民や民生委員など普段のかかわりが多いところから地域包括支援センターや成年後見センターへつなぐ必要がある。また複合的な症状を抱えた人への支援は、症状に応じた専門のアウトリーチチームを編成し、チーム員総動員して支援を行なっていく必要がある。